

情報公開文書

聖隷三方原病院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた検体やカルテ記録を利用することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究の計画や方法について詳しくお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ記録を利用することをご了解いただけない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 肺切除後に発症した術側残存肺PPFE (pleuroparenchymal fibroelastosis) 症例の検討

[研究機関名] 聖隷三方原病院

[研究機関の長] 荻野和功

[研究責任者] 内山粹葉 (呼吸器外科・医師)

[研究の概要]

■ 目的・方法 (研究期間も含む)

研究期間：実施承認後～2023年10月31日

目的：拡大手術後の肺は、数年単位で上葉優位型肺線維症 (PPFE : pleuroparenchymal fibroelastosis) をきたすことがあり、PPFEの出現は肺の荒蕪化をきたす。荒蕪肺化による呼吸苦や在宅酸素導入を余儀なくされADL低下につながるため、術後のPPFE出現におけるリスク因子を探ることを目的とする。

上記のようにPPFE出現のリスクを検討することで、肺切除後のPPFE出現を予防できるようになる可能性がある。

方法：診療録を用いた後ろ向き観察研究

■ 対象となる患者さん

2009年1月～2020年12月に当院で原発性肺癌に対して二葉切除、胸壁合併切除、気管支形成術、術前化学放射線療法を施行した症例のうち、術後に上葉優位型肺線維症 (PPFE : pleuroparenchymal fibroelastosis) と診断された患者さん

■ 研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：研究対象者について、以下の臨床情報を診療録から取得する。

- ① 臨床所見 (年齢、性別、身長、体重、病歴に関する情報 (既往歴、喫煙歴)、臨床病期)
- ② 血液所見 (アルブミン等)
- ③ 病理学的所見 (間質性肺炎の有無)
- ④ 治療 (術式)、PPFE発症時期、残存肺の感染の有無、新規呼吸器症状の出現の有無
- ⑤ 術後の胸部CT所見

[問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

(様式 17)

研究番号	第 23-03
------	---------

内山粹葉、呼吸器外科

電話 053-436-1251 FAX 053-438-2971